

2008年度 外国語学部（スペイン・ラテンアメリカ、フランス、ドイツ、アジア学科）・法学部

2008年2月12日実施

解 答

1 (B)	2 (D)	3 (A)	4 (D)	5 (C)	6 (D)
7 (B)	8 (D)	9 (B)	10 (D)	11 (A)	12 (B)
13 (C)	14 (C)	15 (B)	16 (D)	17 (B)	18 (A)
19 (C)	20 (A)				

1. 「来週の試験は、私たちが年度始めから学習してきたことすべてを対象にする」
- ▶ everything以下は目的語になるから、空欄は述語動詞でなければならない。(D)の受動態では意味が通らないので、(B)を選ぶ。「来週の試験」のような確定的な未来は現在形で表す。

現在形の用法

①現在の事実・状態、現在の習慣的動作

「現在の状態」を表すときには、動詞の現在形を用いる。この場合使われるのは、loveのような状態を表す動詞である。

I **love** chocolate ice cream. [現在の状態]

私はチョコレートアイスクリームが大好きです。

drinkのような動作動詞の現在形は、「今」を中心にして過去から未来にわたって繰り返される動作を表す。

I **always drink** coffee at breakfast. [現在の習慣的動作]

私は朝食の時にはいつもコーヒーを飲む。

②一般的な事実や真理

現在形は、「今」を中心にして「過去」や「未来」にも成り立つ状態や動作を表すので、過去・現在・未来を通じて変化のない事実を表すことができる。

The earth **goes** around the sun.

地球は太陽の周りを回る。

③確定的な未来の予定

現在形で未来を表すことができる。この場合、「今」の時点すでに確定しており、変更の可能性がないという意味合いが含まれる。

Our flight **leaves** at 11:45.

私たちが乗る飛行機は11時45分に出発する。

④時や条件を表す接続詞の後で用いる

The birds **will fly** south **when** winter **comes**.

冬が来ると、その鳥は南へ飛んでいくだろう。

2. 「ケビンとジュリーはハワイで結婚した」

get married (to ~) 「(~と)結婚する」 (= **marry** ~「~と結婚する」)

She **got married to** a famous writer.

(彼女は有名な作家と結婚した。)

▶ A **is married to** Bは **marry A to B** 「AとBを結婚させる」の受動態。「結婚する」という『動作』の意味を明確にする場合be動詞の代わりにgetが使われる。

cf. **be married (to ~)** 「(~と)結婚している」

3. 「その探偵は、各々の犯罪がどのように行われたかを解明することに長けていた」

▶ **commit a crime** 「罪を犯す」 how節の主語はeach crimeだから、commitは受動態になる。主節の時制が過去なので、(A)が正解。

be good at ~ 「～が得意である」 ⇔ **be poor at ~ / be weak in ~** 「～が苦手である」

You're not very **good at** reading maps, are you?

(君は地図を読むのがあまり得意ではないですね。)

work out ~ 「(問題など)を解く」 (= **solve** ~)

The English teacher gave us five minutes to work out the problem.

(英語の先生はその問題を解くのに私たちに5分時間を与えた。)

4. 「あなたの赤ちゃんが2週間前から病気だと聞いて、お気の毒に思います」

► for two weeksから現在完了形を選ぶ。your baby以下は名詞句である。

□ **be sorry to do** 「…ということを)気の毒に思う/すまなく思う」

I'm sorry to have kept you waiting.

(お待たせして申し訳ありません。)

5. 「トムは自分が間違っていても決して謝らない人だ」

► someoneを先行詞とする主格の関係代名詞whoに対応する動詞を選ぶ。

□ **apologize (to A) for B** 「(Aに)Bのことで謝る」

► apologizeは自動詞用法のみなので、謝る相手にはto, 理由にはforが必要。

Will you apologize to him for what I have done?

(私がやってしまったことを彼に謝ってくれませんか。)

6. 「ツトムはドライブしながら音楽を聴くのが好きだ」

► while drivingは、ここではwhile he is drivingのこと。duringは**特定の期間**を表すので不適。

□ **while doing** 「～している間」

A plane crashed while attempting to land in Portland.

(ポートランドに着陸しようとしているときに、飛行機は墜落した。)

► 例文ではwhile it was attempting to land in Portlandのit wasが省略されている。

7. 「試験のことを心配してもどうにもなりませんよ」

□ **What is the use (of doing)?** 「(～しても)何の役に立つか/(～しても)無駄である」

What's the use of my going there?

(私がそこに行って何の役に立つのですか。)

8. 「今度の日曜日は3ヶ月ぶりに取る休日だ」

► for 3 monthsから現在完了形を選ぶ。have a day off 「1日休みを取る」

9. 「私たちの新しいコンピュータは、従来型のほとんど半分の大きさだ」

□ **half the size of A** 「Aの半分の大きさの」

half the size of (the) Tokyo Dome (東京ドームの半分の大きさ)

oneとitの使い分け

(1) **one = a + 名詞** ➔ 前出の名詞と同種類のものだが不特定のものを指す

it = the[所有格] + 名詞 ➔ 前出の名詞そのものを指す

(2) itには修飾語はつかないが、oneには修飾語をつけることが可能で、その場合は冠詞がついたり(a[the] ~ one), 複数形(ones)になったりする。

“Which do you like?” “I like the big one.”

どちらが好きですか——大きいほうが好きです。

10. 「口の中をいっぱいにしながらしゃべるのは行儀が悪いですよ」

► with + 名詞 + 形容詞 「OをCの状態にして」付帯状況を表すwithの用法。

□ **with your mouth full** 「口に食べ物をほおばって[ほおばったまま]」

Don't talk with your mouth full.

(口に食べ物をほおばって話をしてはいけない。)

cf. **with her socks on** 「靴下をはいて」

with tears in her eyes 「目に涙を浮かべながら」

11. 「子供は良いことと悪いことの区別の仕方を教えられなければならない」

□ **distinguish between A and B** 「AとBの区別をする」 (= **distinguish A from B**)

He couldn't distinguish between silk and cotton.

= He could not distinguish silk from cotton.

(彼は絹と綿を区別できなかった。)

► distinguishの代わりに**tell / know**を用いることができる。

► (B)admit「～を認める」, (C)separate A from B 「AをBから区別する」

(D)promote「～を促進する」

□ **need to be done** 「～される必要がある」 (= **need doing**)

Those windows *need to be cleaned.* (= Those windows *need cleaning.*)

(あれらの窓は掃除する必要がある。)

12. 「クレジットカードは便利だが、それによって自分の収入以上の暮らしをしてしまう人もいる」

► meansは「財産、収入」の意味で, live beyond one's meansは「収入以上の暮らしをする」となる。

► (A)ability「(～する)能力」, (C)power「(～する)権力」, (D)way「やり方/道」

□ **encourage A to do** 「Aに～するように励ます/Aに～するよう仕向ける」

The teacher *encouraged me to study.*

(先生は私に勉強するように励ました)

► 反意語discourageはdiscourage A from doing 「Aに～するのをやめさせる/思いとどまらせる」の形をとるので要注意。

13. 「最も成功した会社とは、自分の顧客を満足させるために最大の努力をする会社のことだ」

► satisfy 「(人)を満足させる」

► (A)attend「～に出席する」, (B)refer「(～に)言及する(to ~)/(本などを)参照する(to ~)」, (D)award「(賞などを)授与する」

■ the one(s)+関係代名詞節

This book is not so exciting as **the one I read last year.**

(この本は去年読んだ本ほど面白くない。)

► one(s)は関係代名詞などで限定されると定冠詞がつく。例文のthe oneはthe bookを表し、直後に目的格の関係代名詞**which[that]**が省略されている。

14. 「運転中の携帯電話の使用を禁止する法律は、施行するのが難しい」

► enforce 「(法律・規則など)を施行する、守らせる」

► (A)discriminate「(～を)差別する」, (B)prevent「～を防ぐ」, (D)record「～を記録する」

□ **forbid A to do** 「A(人)に～することを禁ずる」 (= **forbid A from doing**)

The doctor forbids me to smoke.

(医者は私に喫煙を禁じている。)

15. 「ミツバチは身の危険を感じない限り、普段は人を襲わない」

► they feelの補語として適當なのはどれか。threatenは他動詞で「～を脅かす」の意。この過去分詞threatenedを選んで、feel threatened「脅かされたと感じる/身の危険を感じる」とする。なおdangerousは、自分の身が危険だということを表すのではなくて、あるものが他のものにとって「危険だ」という意味。

「SVC」の形をとる動詞

SVの後にS(主語)を説明するC(補語)をとる動詞の数は限られている。次の4つのタイプに分けて覚えよう。Cになれるものは主に**形容詞[分詞]**である。be動詞やbecomeなどの場合には名詞がくることもある。

(1) **be** 「～である」タイプ——『状態を表す動詞』

be / lie / sit / stand 「～である」

keep / remain / stay 「～のままである」

(2) **become** 「～になる」タイプ——『変化を表す動詞』

become / grow / get / turn / go / come 「～になる」

(3) **look** 「～に見える」タイプ——『外見を表す動詞』

appear / look 「～に見える」

seem 「(話し手の主観的な判断で)～と思われる」

(4) **feel** 「～と感じる」タイプ——『知覚動詞(感覚動詞ともいう)』

- feel** 「～と感じる/感じ[手触り]が～だ」
- taste** 「～の味がする」
- smell** 「～の匂い[香り]がする」
- sound** 「(話が)～に聞こえる/(聞いたりして)～に思われる」

unless ~ 「～でない限り(= except that ~)/もし～でなければ(= if ... not)」

The laundry won't dry quickly unless it's sunny.

(晴れていないと洗濯物はすぐに乾かない。)

▶ unlessは「～でない限り」という否定の条件を表し、仮定法では用いない。

16. 「大気汚染がますます地球温暖化に影響を与えていくようだ」

▶ It seems likely that ~で「～はありそうに思われる」の意。

▶ (A)develop「～を発達させる」, (B)make「～を作る」, (C)form「～を形作る」

contribute to A 「Aの一因となる/Aに貢献する」

Smoking probably contributed to his cancer.

(おそらく喫煙が彼のがんの一因だったのだろう。)

17. 「スーザンは23歳であるにも関わらずとても幼く見えるので、運転できる年齢だということを証明するものを求められる」

▶ ask for A 「Aを求める」ここでAに当たるものはproof「証明(するもの)」で、運転免許証などのことだと考えられる。同格のthat節が続いていることに注目。

proof that ~ 「～という証拠」

▶ (A)license「許可、免許」, (C)identity「身元」, (D)test「検査、試験」

even though 「～ではあるが」——後ろに事実が来ることが多い。

Even though it was raining, we went to the beach.

(雨が降っていたが、海へ行った。)

18. 「私はエミリーに彼女の携帯電話を貸してくれるよう頼んだが、彼女はその提案を快く思わなかった」

▶ lend A B = lend B to A 「AにBを貸す」ちなみにshareの場合は、share A with B 「A(物)をB(人)と分け合う / A(物)をB(人)と共有する」となる。

ask A to do 「Aに～するように頼む」

He asked me to set his words down on paper.

(彼は私に彼の言ったことを紙に書き留めるよう頼んだ。)

19. 「トニーは宿題をさっと見ただけで、すぐにそれが難しすぎると判断した」

▶ take a quick look at A 「Aをさっと見る」

take a look at ~ 「～を(ちょっと)見る」 (= have a look at ~)

Could you take a look at this draft?

(この下書きを読んでいただけますか。)

20. 「ジェフリー、お父さんが電話で話をしているのを遮るのはとても失礼なことですよ」

▶ interrupt 「(話など)の腰を折る/(進行・流れなど)の邪魔をする」なお、interfereは「邪魔をする/干渉する」の意だが、自動詞のため不適。

▶ (B)interfere「邪魔をする」, (C)interact「…と互いに影響し合う」, (D)interpret 「(言葉)を通訳する」

It is ... (for A) to do 「(Aが[Aにとって])～することは…だ」

It is necessary for you to go there immediately.

(あなたはすぐにそこへ行く必要がある。)

▶ Itは**形式主語**で、後にくる事実上の主語である不定詞句を受けている。to以下が真主語であるからItを「それ」と訳さない。不定詞の意味上の主語を表す必要がある場合は、**for A**で表す。